

シャイニングシルバーへようこそ 祁ちゃん ～花言葉と少女の恋～

(翻訳：凜峰／校正：祀夜)

01. またお会いしましたね、お客様

こんばんは、シャイニングシルバーへようこそ。

またお会いしましたな、お客様。ご指名いただき、ありがとうございます。今回担当させていただきます、祁（キ）と申します。

ふふ、お客様は毎回いらっしゃるとき、そのことをおっしゃいますね。

もしかして、本当に私の名前を知るだけのために、ここへいらっしゃったんですか？

ふふ、そのようなご返事はいけませんよ、お客様。せめて私のサービスが好きって言ってください。

でないと、名前を言ってしまったら、お客様はもう二度と来ないかもしれないと思ってしまいます。

一度やり直しませんか？お客様は、どうして私を指名なさったんですか？

ふふ、はい。好きというなら、もうお時間を取らせません。

今日のご注文、お決めください。

ふふ。

肩マッサージと耳かきですね？かしこまりました、少々お待ち.....

ん？どうかなさいましたか？

あー.....確かに、お客様はまだこのサービスを注文したことありませんね。

そうです。耳舐めサービスは文字通り、私たち担当者がお客様の耳を舐めるというサービスです。

耳かきと同様に、かなりリラックスできるサービスですよ。いかがでしょうか？

かしこまりました。

それでは、コースを決めましたので、ご準備いたします。

お待たせしました。お部屋までご案内いたします。

はい、どうぞ。

少々お待ちください。寝巻きをお持ちします。

前回と同じでよろしいでしょうか？それとも、違う色をお選びますか？

かしこまりました。

はい。着替えが終わったらお声かけください。

済みましたか？

それでは、ソファーにお掛けください。サービスを始めさせていただきます。

02. ラベンダーの香りの中でラベンダーの物語を聞く（肩マッサージ）

前にマッサージをする時、いつもテンジクアオイを使いましたよね？

今回は他のアロマオイルを使いましょうか。お客様どのようなお花がお好みですか？

特にありません、ですか？

ん.....では、ラベンダーはいかがでしょう？

ラベンダーの香りは柔らかくて、人を安心させられます。それに、筋肉をゆるめる効果もあります。肩マッサージにはぴったりのアロマオイルですよ。

はい、ラベンダーに決まりますね。

それでは、上半身の寝巻きをお脱ぎになって、肩をお見せください.....

はい、これで大丈夫です。

それでは始めますね。

ん？

ラベンダーの花言葉は当然知っていますよ。

ラベンダーの花言葉は「あなたを待っています」と、いいます。

露骨な愛を表すバラに対して、ラベンダーが表すのは期待、それと憧れという気持ちです。

まるで.....一人の内気な少女が、彼女の青春を夢見ているようです。

そうですよ、私は昔から色々な花言葉が大好きです。

様々なアロマオイルを見るたびに、思わずそれらの花のことを知りたくなるんです。

花はみんな、それぞれの美しい物語があります。知れば知るほど、心を引かれるんです。

そして、アロマオイルを買ったら、なんかそれらの物語を持っているような感じがします。

はは.....結局、元々は仕事のためにアロマオイルを買うはずなのに、今はそれが私の趣味になりました。

そうだ。お客様はラベンダーの物語を聞きたくありませんか？

ラベンダーの香りの中でラベンダーの物語を聞く。なんだか雰囲気が出ると思いませんか？

では始めますね。

コホン.....昔々、ラベンダーの故郷であるプロヴァンスで、ある美しい少女がいました。

ある日、彼女は一人で谷で花摘みに行っていました。そして帰る途中に、怪我した旅人に出会って、道を尋ねられました。

あの旅人は整った顔をした青年です。少女は彼の笑顔を見たら、すぐに惚れました。

その後、少女は青年を家に連れ帰って、傷の手当てをしてあげました。そして家族の反対にかかわらず、傷を癒すために、青年を家に泊ませました。

青年が傷を治している日々に、二人はますます惹かれ合って、少女の心は完全に青年から離れられなくなりました。

しかし、傷が治した後、青年は少女に別れざるを得ません。

そして、青年が出発の日の朝、少女はまた家族の引き止めにかかわらず、青年に追いかけて、一緒にバラが一面に咲いているという故郷についていくと決めました。

少女が出発する前に、村のおばあちゃんが一束のラベンダーを彼女に渡し、これを使って青年の本心を試そうと言いました。

それが伝説によると、ラベンダーの香りは不純なものを明かすことができるからです。

その後、少女は青年に追いつきました。青年は少女の手を取って、彼女を連れ行くと約束しました。

その途端、少女はコートに隠したラベンダーを取り出し、青年に投げつけました。

すると、何と青年は体から紫色の煙が出し、そのまま風と共に消えていきました。あまりの出来事に、残されたの彼女は呆然とするしかない。

その後、誰も二度と少女の姿を見たことがありませんでした。

ある人は、彼女は花の香りに従って、青年を探しに行ったと。

ある人は、彼女は青年と同じ煙になり、谷に消えたと言っていました。

はい、お終いです。

この話、いかがでしたか？

ふふ、そうですね。私も最初はそのラストシーンに納得いきませんでした。

でも.....それは多分、お客様はまだ物語の背後にある意味を理解していませんから。

試しに考えてみませんか？

そう言わずにしてください。

物語の背後にある真意を探すのも、時には一種の楽しみになりますよ。

はい、ではしばらくお邪魔しません。お客様によく考えさせますね。

はい？ヒント、ですか.....

ヒントは、どうしてあの青年は煙になりますか？

それだけです。頑張ってくださいね、ふふ。

思いつかない、ですか？

ここで諦めないでください、もう少し考えて。

ん？やはり諦めますか？

そうですか、ちょっと残念です。

大丈夫です。それでは、自分の考えを話させていただきますね。

ん.....先ほど、ヒントは「どうしてあの青年は煙になりますか」と申しましたよね？

その答えは：青年は本当の人間ではないからです。彼は多分、少女の心の中のとあるイメージだと思います。

つまり.....青年というキャラが表すのは、少女の愛情に対する憧れです。

物語はまた、少女が「バラが一面に咲いている故郷」に行くと話しましたね？

バラが表すのは愛情です。バラが一面に咲いている場所は、きっと様々な愛情が溢れているでしょう。

ですから、少女が本当に欲しいのは、青年についていくことではなく、憧れの愛情を辿ることです。

少女が出発した後、彼女をその道に導いた青年が消えるのは当然のことです。

青年と一緒ににならないけれど、彼女はより美しい愛情に辿りつく道を進んでいます。

私なりの解釈に、ご満足頂けましたでしょうか？

それは良かったです。

ん？どうなさいましたか？

ふふ、まだ物語の結末を気になさっていますか？

最初からすべてが決まっていたら、想像の余地がありません。

結末は自由だからこそ、少女の代わりに愛情の夢を見ることができます。

そうしたら、「あなたを待っています」という花言葉により相応しいではないでしょうか？

ふふ、私はまだまだ少女ですよ。私も夢見ることが好きです。

ん.....けれど、普通の女の子と違って、私は王子と姫様が出て、おとぎ話のような愛情は憧れません。

私の憧れは、淡く、平凡な愛です。

二人が普通に会って、普通に付き合います。そしてそのような日々の中で、だんだん分かり合い、最後に一緒になることにしました。

そのような愛情は、実は一番ロマンティックだと思いませんか？

それで、お客様はどう思われますか？

どのような愛情が憧れですか？

ふふ。

はい、肩マッサージはこれでお終いにします。

いかがでしたか？体が楽になりましたか？

ふふ。

それでは、次は耳かきですね。

03. 私はここにいて、誠心誠意ご奉仕します（耳拭き）

寝巻きは元に戻して大丈夫ですよ。

前と同じように、サービスを始める前に、アイマスクをつけさせていただきます。
行きますよ。

はい。

ふふ。ではいつものように.....ご確認させますね？

ご安心ください、ここにいるのは私とお客様、二人だけです。

ここは二人きりの世界。

私はここにいて、誠心誠意ご奉仕します。

ふふ。

ですが、その前に、ちょっとご相談がありまして.....

それは、今回お客様が耳舐めサービスを注文したので.....

本来ならば、そのサービスも膝枕で行いますが、正直その姿勢はちょっと苦しいです.....

はは。

ですから、これからのサービスは、添い寝でさせていただきたいのですが、いかがでしょう？

添い寝にすると、側を替えるとき、お客様は動かなくて結構です。私が動きます。

それに.....私との距離も、近くなりますよ。

ふふ。お気遣い、ありがとうございます。

それでは、そちらを向いて、横になってください。

はい。

耳かきをする前に、まずは同じようにおしぼりでお耳をお拭きします。

左から始めます.....

しばらく置いたので、おしぼりは少し冷めてしまいました。

しかし、最近も暖くなりましたし、この温かさはまだ大丈夫ですよ？

それは良かったです。

実は、タオル蒸し器は各部屋に一つ配置したほうがいいって、店長に言いましたけれど。ですが、店長はそうなれば電気代が恐ろしいことにだって、許可が下りてくれませんでした。

しかし、もうすぐ夏ですから、その時は冷たいおしぼりに代わります。
部屋にいても、氷入りのバケツを置いてくれば、おしぼりの温度を維持ができて、このような問題ありません。
その時いらっしゃると、リラックスだけではなく、暑さを吹き飛ばすこともできますよ。
ふふ。

はい、こっちはできました。
次はこっちのお耳.....

ん。これで両耳ともできました。
それでは続きまして、耳かきサービスをいたしますね。

04. 周りの人の恋の花が咲くのを見たいのも乙女心です（左耳かき）

それでは、お客様と背もたれの間に失礼します.....

うーん.....このソファが広いだと思ったけれど、実際に横たわると想像より狭いとは.....
あっ、大丈夫です。お客様は動かなくても構いません。私のほうから合わせます。

よし、これでいいです。

いかがですか？もっと近く感じましたでしょう？

ずっとこんなに近くで話しかけると、ドキッとしませんか？

ふふ。

では.....存分に感じてくださいね。

この後、お客様がどちらの体勢が好きかを聞かせてください。参考にしますから。

さて、サービスを始めさせていただきますね。

耳かきを取ります.....

行きますよ。

お耳あたりなにが違和感、感じていませんか？

いいえ、何でもありません。聞いてみただけです。

実はこの耳かきは先週、先輩がくれたものです。手造りですって。

なので、お客様は違和感を感じられるでしょうか、と。

しかし、やはりちょっと無理ですね。

あっ、覚えてくれたんですね。

そうです、年下のあの先輩です。

この耳かきは使い心地がいいって、みんなに買ってあげたんです。

みんなが彼女に礼を言うとき、ちょっと照れるのが可愛かったです。ふふ。

ん.....値段は分かりませんが、手造りの耳かきは安くないらしいですよ。

さすがに三千円以上とは思いませんけど、少なくとも千円ぐらいだと思います。

安物の耳かきは、七十円ぐらいで手に入れますよ。

それと比べたら、千円はとて高いほうです。

ふふ。

いいえ、何でもありません。ただあの先輩のことを、ちょっと思い出しただけです。
ん.....お客様なら大丈夫でしょう。しかし、他の方には内緒ですよ。ふふ。

それはですね、最近あるお客さんがよくあの先輩を指名します。彼女によると、その人は「知り合い」だそうです。
本人は否定していたが、あのお客さんと話しているときの感じから見ると、私たちもきっとあのお客さんのことが好きだと思います。

ふふ。そうですよ、見え見えです。

他のお客さんとあのお客さんに対する態度は明らかに違いますから。
そういう訳で、私たちはどうやってあの二人近づけるのに協力するのか、こっそりと話し合いました。

そしたら先日、私は耳かきのお返しだと、彼女にチューリップのエッセンシャルオイルをプレゼントしました。そして、あのお客さんと部屋にいるとき使ってと言いました。
彼女は少し怪しいと思ったみたいだけど、言う通りにしました。
その後、チューリップの花言葉を教えたら、彼女の顔がすぐに赤くなりました。
それは真っ赤です。まるで煙が出そうのような.....本当に可愛かったです。ふふ。

チューリップの花言葉は「愛の告白」ですよ。
二人しかないお部屋でそのエッセンシャルオイルを使うと、告白したも同然ですよ。ふふ。
ん.....けれど、あのお客さんの反応がまだ知りませんので、成功したのか失敗したのか、そこまでは分かりません。

はい。ヒントを与えたことがありますから、多少は気が付いてると思います。
鈍い人らしいですけどね。

彼女本人ですか？

騙したことを咎めて、最近あんまり構ってくれないんです。
私は好意のつもりだけれど、気分を悪くさせたのはよくないです。
今度機会があればちゃんと謝りますから。

でも、実は彼女とそのお客さんがうまくいくのがより望ましいです。
周りの人の恋の花が咲くのを见たいのも、乙女心ですから。ふふ。

はい、こっちのお耳は綺麗になりました。
続いてこっちの綿毛で清掃していきます.....

はい、前は綿棒ですが。

この耳かきをもらった後は、これにしました。

これはね、ガチョウの尻あたりの綿毛で作ったらしいです。感触は綿棒より気持ちいいでしょう？

他のお客さんもこれが好きっておっしゃいました。

いかがでしょうか？

それは良かったです。

一部のお客さんは多分慣れていきますから、相変わらず綿棒で掃除するのを頼まれます。ですから、こちらは用意してあります。

けれど、そのようなお客さんは多くないので、最近綿棒の消耗は少なくなりました。

これを使うのはエコにも役に立ちますね。

はい、こっちの耳掃除はできました。

続きまして.....

吹きますよ.....

もう一度。

特別にもう一度.....

これで片側は終わりました。

そっち側に移動いたします.....

05. 理想な恋人は既に近くにいるかもしれません（右耳かき）

きゃっ！

あっあはは.....平気です。危うく落ちるところでした。

あっ、本当に大丈夫です。広さがまだあります。

ゆっくりすれば.....

ん、これで問題ないです。

それでは、こっちも始めさせていただきます.....

はい？何でしょうか？

ふふ。そんなに私の名前を知りたいですか？

ですが、前も申しましたね、名前が普通ですって。お聞きになると、がっかりさせるかもしれませんよ。

ふふ。お口がお上手ですね。

ん.....では、私から少しクイズを差しあげましょう。もし答えできたら教えます、いかがでしょう？

そうですね、問題は.....

今日は花の話をたくさんしましたから、私の最も好きな花は何かを当ててみましょう。

チャンスは三回。いかかですか？

ご心配なく。当てなかったら、ヒントを出しますから。

はい、では決まりますね。きちんと考えてくださいよ、ふふ。

えっ、カーネーション、ですか？

面白いな答えですね。

好きそうだから？

確かにカーネーションが好きですけど、残念ながら、ハズレです。

そう言えば、カーネーションが好きではない人は、実はあんまりいないではありませんか？

母の愛を象徴する花ですもの、カーネーションと言うと、母のことを思い出します。

お客様に言われると、私も母との思い出を思い出しました。ふふ。

はい、それは別として、今回はハズレですから、チャンスはあと二回ですよ。

そしてヒントは、ん.....

ヒントは、漢字四文字です。

これはかなり明らかなヒントですよ。漢字四文字の花は、私もいくつか知りませんから。

オオハルシャギク（中国語では「大波斯菊」と書く）、ですか？

いい答えですね。けれど、残念ながらまたハズレです。

強いて言えば、オオハルシャギクはむしろ澄依（チョウイ）先輩が好きそうな花ですね。

「乙女の真心」を表す花ですからね。

あっ、いつも話していた噂の先輩のことです。うっかりして名前を言ってしまいました。

私に隠れて彼女を指名なさってはいけませんよ。

彼女を笑ったことを告げ口なさってもいけませんよ。

ふふ。

とりあえず、もうチャンスは一回しか残りません。大切にしないとはいけませんよ。

ヒントは.....

漢字四文字の分け方は二文字、二文字で、後ろの二文字はよく知られている花のことです。

こうなったら簡単でしょう？

えっ？他の漢字四文字の花を思いつかない、ですか？

必ずありますよ。もうちょっと頑張ってみてください。

アデニウム（中国語では「沙漠玫瑰」と書く）、ですか.....

あら、ヒントに合致する答えを出しましたが、残念ながらまだハズレです。

私の名前はひとまず保留するしかないようですね。

ふふ。いけませんよ。チャンスは三回と約束しましたから。

ん.....けれど、お客様も頑張ってますから、次いらしゃる時にお伝えいたします。いいでしょう？

私は約束を守る人ということを、お客様もご存知ですから。

では決まりますね。

はい、こっちのお耳も綺麗になりました。

続いては.....

はい？正解は何、ですか？

あっ、そうでした。伝えのを忘れてしまいました、はは。

正解は、アルストロメリア（中国語では「水仙百合」と書く）ですよ。ご存知ですか？

ふふ。こんな名前ですけど、スイセンやユリとも関係がありません。それに、外見はむしろツツジのほうに似ています。

子供の頃、母と買い物に行って、花屋さんを通るとき、こういった花を見ました。綺麗だと思ったから、私は思わず足を止めて、ついつい眺めてしまいました。

そしたら、花屋のお姉さんが寄ってきて、「これはアルストロメリアだよ」と教えてくれました。そして、花言葉が「出会いを期待します」（台湾などの中華圏の地域の場合）ということも教わりました。

あの頃の私はまだ花言葉とは何かが知りませんから、彼女から説明してくれって、それは人々がいろいろな花に持たせた言葉だと。

ある象徴か、言いたいことか、あるいは祝福。

最後に、彼女は理想の恋人に出会えるようにと、私に一輪のアルストロメリアをくれました。

素敵な話でしょう？

それが私が花言葉を好きになる原因ですよ。

それに、そう思い出してみると.....

理想の恋人は、すぐそばにいるかもしれませんね。

ふふ。

こっちの掃除も終わりました。

では、続きまして.....

吹きますよ.....

ふふ。

これで耳かきサービスは全部終わりました。

06. お客様が楽しめないならば、私のサービスも無駄になります（右耳舐め）

お次は耳舐めサービスです。

では、直接にこちらのお耳から始めますね.....

まずお耳のフチから.....

お客様のからだが固まってしまいます。緊張していますか？

ふふ。恥ずかしがらないで、力を抜いてください。

お客様が楽しめないならば、私のサービスも徒労になりますから。

いかがですか？気持ちいいですか？

ふふ。良かったです。

続いてお耳の裏側を.....

そして、お耳の中を.....

ふふ。

お客様は楽しんでいただけたようで、何よりです。

ここでおしぼりでお耳を少し拭いてから、そっち側のサービスを行いますね。

はい。

07R. 私に.....責任取らせてください（耳紙め手コキ）

では左側に戻りますね.....

ヒャッ！

あっ、すみません！お客様、大丈夫ですか？

足が滑って.....

えっ！？どうしましたお客様！そんなにつらい顔を.....

下の方.....？

あっ！わ、わたし.....！本当に申し訳ございません！

わ、わたしは.....何をしたらいいですか.....？氷で冷やしますか？それとも.....？

ちょっと休めばよくなる.....？で、でも私.....

ううう.....

ほ、本当に私にできることはないんですか？

こ、こうやって手で触れば、痛みは、よくなりませんか.....？

ダメ？で、でも.....何かしなければ.....

何もできずに、ただ見るだけとしたら、私はとても不安に思います.....

え、えっ？

（独り言）お、大きくなりました.....

ううう、あの.....

こうすると.....少しは、良くなりましたか.....？

そうであれば.....続けさせていただきませんか？

続けさせてください。いいですか.....？

は、はい.....

いかがですか、お客様.....？まだ痛みますか？

もう痛くない.....？本当ですか？

もう止めてもいい、ですか？

わ、わかりました.....

（独り言）うう、完全に立ってきました.....

(独り言) このまま放っておくと、あまり良くないでしょうか.....？

すっ.....はっ.....

コホン、ん.....あの、お客様.....

この件は、私の責任です.....

お客様を蹴ったことも.....ア、アレをこんなにさせたことも.....

ですから、お詫びとして、私が.....つ、つまり.....アレを元の状態に.....いいですか？

私に.....責任取らせてください。

はい、おっしゃるとおりです。ここはそのような店ではありません.....ですが、これはサービスではありません。私個人の謝りです。

そ、それに.....お客様は目隠しをしているから、何も見えていません。そうでしょう？

私はただ、耳舐めサービスを行っているだけですから.....

大丈夫、ですよ.....？

はい、分かりました。それでは.....

はっ.....！

(独り言) これが.....男の、うう.....

では.....始めますね？

ううう.....このままだと、ちょっと苦しくありませんか？

潤滑にする方が、いいでしょうか.....？

ん.....

(独り言) これで大丈夫なはずでしょう.....

で、では、こちらの耳舐めサービスを始めていきますね。

あの、そっちの方はまだ不慣れなので.....何かご要望がありましたら、言ってくださいね.....

体がまた固まってしまいます.....お客様が緊張すると、私も緊張してしまいます。

ですから、どうか力を抜いてください。

私のサービスを感じて、楽しめばよいです.....

その方が、私もより安心します.....

声を我慢なさらなくても大丈夫ですよ.....感じてしまったら、声を出してもいいです。

誰も聞こえませんか.....

ここは私とお客様、二人きりの世界.....

お客様の敏感なところ、分かった気がします.....

ここ、それとこの辺り、ですね.....？

では.....手の握り方を変えて、お客様にもっと感じさせますように.....

このようにして、ご満足いただけますでしょうか.....？

それは、良かったです。

ではお耳の方も、舐める場所を変えますね.....

お客様の呼吸がますます激しくなりました.....ちょっと苦しそう.....

ちょっと緩めていきましょうか.....？

大丈夫ですか.....？

はい、分かりました.....

もう.....出したいですか？

いいんですよ.....我慢しなくていいです.....

出したいなら、いつでも出してください.....

ちょっとスピード上げていきますね.....

出るときは、言ってくださいね.....

ちゃんと手で、受け止めますから.....

全部、私の手に出してください.....

もう出しそうですか？

いいですよ、出してください.....

出して.....出して.....

ん.....あっ、はあ.....っ。

はあっ.....出しました.....手のひら、熱い.....

はあ.....はあ.....っ.....

ん、元に戻したようですね.....

おしぼりで綺麗にさせていただきます.....

すっ.....はっ.....

で、では、お客様はそのままでおくつろぎください。私はちょっと片付けしてきます.....

08. 何度でも、お客様との再会を待ち望みます

お客様、まだ起きてますか.....？

あっ、目隠しを外さないでください.....ここで目が合ったら、私はきっと隠れたくなります.....

あ、あの、お客様.....その.....本当に、申し訳ありません、勝手にそのようなことをして.....私はさっき、外でよく考えて、はじめて自分が何をしたのかを気づきました。

私、考えていませんでした。お客様は言いませんでしたけれど、実は私にそんなことをされたくないかもしれません.....

このような行為に、もし責めたいなら.....

大丈夫、ですか.....？

ほ、本当に、大丈夫ですか？

はい、ありがとうございます.....

で、では、これからもお客様にサービスをさせていただきますでしょうか.....？

そうですか.....良かったです。

そ、それと.....ちょっとわがままですけど、もう一つの願いを聞いていただけますでしょうか.....？

それは.....そばにいさせて、いただけませんか？

私いま、気持ちがぜんぜん落ち着かないんです.....こんな様子は、絶対他の人に見させてはいけません。

ですから、私をここにいさせて、お客様と一緒に寝させてください.....よろしいでしょうか？

ん.....分かりました、本当にありがとうございます。

それでは、横に失礼しますね.....

今回はよく気をつけますから.....

今までないんです.....こんなに心が乱れるなんて.....

私のこの様子は、きっとお客様だけが知っています。

明日になると、できるだけ今までの私に戻りますから.....

お客様もこのことを忘れて、今までの態度で扱ってください。

お願いします.....

そうだ、お客様.....

私の名前は、婉娟（エンケン）と申します.....祁婉娟。

はは.....詰まらない名前でしょう.....

これからは、お客様に包み隠すことは決してありません。

お客様のことを、もっと誠心誠意扱わせていただきます.....

何度でも、ここでお客様との再会を待ち望みます。

お休みなさい。